



Disaster prevention Expert News

東北地方 防災エキスパートだより

発行:平成18年6月28日

東北地方防災エキスパート事務局 TEL.022-268-4454((社)東北建設協会内)

2006.6
vol.7

「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に備えて」

防災対策官 平石 進

防災課ができ、2年目を迎えております。昨年度の主な災害対応は、8月16日の宮城県沖を震源とする地震と「平成18年豪雪」でした。「平成18年豪雪」では各地の峠部の道路で雪崩が起きました。その対応のための雪崩危険箇所緊急点検に防災エキスパートの方のご協力いただき、ありがとうございました。

さて、8月16日の地震ですが、宮城県川崎町で震度6弱を観測しました。幸いにも直轄施設の被害はなかったわけですが、この地震は想定されている宮城県沖地震ではないと考えられています。宮城県沖地震については、昭和53年の地震から今年で28年が経っています。過去の地震の最短間隔26年を過ぎており、いつ起きてもおかしくありません。しっかりと備えをしていく必要があります。

宮城県沖地震をはじめとして日本海溝・千島海溝周辺では大規模な地震の切迫性が指摘されていることから、平成16年4月に「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」が制定され、平成17年9月1日に施行されました。平成18年2月20日には、地震防災対策を推進する必要のある地域として、東北地方では青森県、岩手県、宮城県、福島県の主に太平洋沿岸の84市町村が「推進地域」に指定されました。3月には中央防災会議において地震防災対策の基本的事項を定めた「基本計画」が策定され、これを基に、現在、推進地域に指定された県、市町村および関係省庁は「推進計画」の、民間事業者は「対策計画」の作成を進めているところです。

海溝型地震では津波による広域で甚大な被害が想定されており、その対応には関係機関の連携が重要となっています。東北地方整備局としても関係機関との連携を進めており、昨年度、陸上自衛隊東北方面隊、第二管区海上保安本部等と光ファイバーを接続し、災害時において各機関のヘリコプター画像等が共有できるようになりました。5月16日には陸自・海保との画像共有運用開始式を行ったところです。



陸自・海保とのテレビ会議



陸自・海保ヘリ画像受信状況

※同時にみちのく号の画像を陸自・海保に配信

5月27日には、仙台市において、内閣府主催の「地震対策を考えるタウンミーティング イン 仙台」が開催されました。防災エキスパートの皆様の中でも参加された方もいるかと思います。政府全体として地震防災対策の強化を進めていくこととしています。

東北地方整備局においても、海溝型地震に備え、防災体制の強化を図って参りますので、今後とも、防災エキスパートの皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

注

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震

房総半島の東方沖から三陸沖を経て、択捉島の東方沖までの日本海溝・千島海溝周辺を震源とする地震。中央防災会議の専門調査会は、過去マグニチュード7~8クラスの大規模地震が繰り返し発生している「宮城県沖の地震」、「三陸沖北部の地震」、「明治三陸タイプ地震」など8つの地震を検討対象とした。

雪崩危険箇所の緊急点検を行いました

今冬は、「平成 18 年豪雪」と命名された記録的豪雪でしたが、東北地方整備局では雪崩発生の恐れが大きいとして 1 月 12 日～17 日にかけて、学識経験者・当局職員及び防災エキスパートによる雪崩危険箇所の緊急点検を実施しました。

しかし、雪は 2 月に入っても降り続き、2 月 10 日、14 日、28 日、3 月 2 日～4 日、6～7 日にも再度、再々度の緊急点検が行われ、1 月からの総点検箇所は青森・秋田 7 号、秋田・山形・福島 13 号、岩手・秋田 46 号、宮城・山形 47 号・48 号、福島 49 号、山形 112 号 113 号におよび、12 名の防災エキスパートが延べ日数にして 26 日間の活動を行い、その豊富な経験と知識を大いに發揮し、東北地方整備局から大変感謝されました。



北上川ダム統合管理事務所と防災エキスパートの懇談会が行われました

平成 18 年 2 月 8 日に北上川ダム統合管理事務所は、今後の多様なダム管理を適切に実施していくため、管轄するダムの勤務経験のある防災エキスパート（電通・機械）の方々の中から 7 名の方を迎えて懇談会を開催し、設備障害の経験談をお話ししていただきたり、最近起きてている設備障害に対する対応等に関して意見交換を行いました。



湯沢河川国道事務所管内の道路定期点検を行いました。



平成 18 年 5 月 23 日、24 日の両日、湯沢河川国道事務所管内で道路定期点検が行われ 2 名の防災エキスパートの方が参加しました。

湯沢河川国道事務所の職員の方々と防災カルテ施設箇所十数箇所を廻り、擁壁の開き及び目地点検や土砂崩落箇所点検、雄勝トンネル点検、道路の法面点検などを行いました。

その他の活動について

- 青森河川国道事務所では、5 月 16 日に岩木川水系で、18 日には馬淵川水系で水防工法訓練を行い、延べ 17 名の防災エキスパートの方が参加し、水防工法の指導を行いました。
- また、5 月 24 日、25 日、29 日に重要水防箇所合同巡視が行われ、延べ 31 名の防災エキスパートの方が参加し、青森河川国道事務所の職員、地方自治体及び水防団の方々と現地巡視を行いました。
- 山形河川国道事務所管内の最上川水系馬見ヶ崎川堤防の河川管理用道路が陥没し、原因究明及び復旧工法等に係る技術的な助言のために防災エキスパート 1 名が出動しました。
- また、5 月 21 日には、山形河川国道事務所長からの要請で、山形市消防団に水防工法指導のため防災エキスパートの方 5 名が出動しました。

編集後記

平成 17 年 11 月 1 日から東北地方防災エキスパート事務局を担当しております。また、平成 18 年 4 月 1 日には事務局の齋藤幸浩主事が山形支所に配置換えになり、渡辺勝幸主事が担当となりましたのでよろしくお願いします。さて、6 月 12 日の朝 M 6.2 で、九州・中国・四国地方全域の広い範囲で強い揺れを感じた地震がありました。5 月には 6000 人近い死者を出した M 6.3 のジャワ島中部地震などがあり、世界的に地震活動が活発化しているように思えます。先日仙台市で行われたタウンミーティングで沓掛防災担当大臣は、阪神などの震災の被災者救助の大部分は自助・共助であったと言われました。日頃から隣近所の付き合いを大事にし、機会があれば町内の防災対応活動などにも積極的に参加したいものです。

（防災調査部長 刀禰 賢 記）